

振り返れば…

千葉県立我孫子高等技術専門学校の園田先生から紹介していただきました澤出です。私が2年目悩んでいるときに、他県ではありますが、快くいろいろ面倒を見ていただきました。また、後日わかったことですが園田先生は訓大サイクリング部の先輩でもあります。

いつもこのリレートークを読ませていただいています。いつかは書くのかなあとか、この文章面白い、この人同級生とか、楽しみに読んでいます。いざ原稿を目の前にするとなかなか難しいものがありますね。皆さんうまく書いていたんだと改めて感心しているこの頃です。

で、私は何を書こうかと考えれば、自分が指導員になってからを反省しながら振り返ってみてもいいのかなと考えています。



私はこの職業訓練指導員という仕事は大変良い職業だと思っています。人と接する、人に教える、修了時には社会人として送り出す、自分にはもったいないぐらいというのが本音です。私自身子どもの頃大変飲み込みの悪い生徒で親身になって面倒見てくれる先生ってカッコいい、なんて思っていました。

夢かない機械科の指導員になり、私は中学校を卒業して入ってくる活発な生徒からおとなしい生徒、成績は良いが休み癖がついている生徒、素直でまじめな生徒を担当しています。

指導員になって間もない頃、私は口下手で、生徒の前で話すということがなかなかできなかった。どちらかと言えば私自身友達同士の間でも話すというより聞き役が多かったのが生徒の前で当然ぎこちなく話す。また自分で

何を言っているのかわからなくなる自分がいたと思いきや、苦い思い出がよみがえります。しかし私もだんだん心臓に毛が生え出し、人前で話すことは場数を踏むことにより少しずつ慣れてきました。あと、自分の悪いところは気づかないけれど人の悪いところはすぐ目につくもので、生徒を叱ってばかりいました。そのため生徒との距離が開いてしまい、ベテランの先生に「もっと誉め上手になりなさい。生徒達を自分の彼女だと思って接しなさい」と諭され、生徒の良い点を見つけながら叱ることに気をつけていたのを思い出します。

私は機械の指導員ですので「やって見せる」という実技指導において大事な部分があります。私は実技指導において不安な面がありました。いろいろな先生に助けていただいているのですが、そのときに先ほど触れた千葉の園田先生、金子先生、永山先生にお世話になりました。実技課題のやり方、方法を教わったり、またやってみせるときの心構えとして、自分に自信を持てるくらい実技を練習し、実技の準備は怠らない、失敗はしない（スキをみせない）など。その時は実技指導の仕方だけでなく、実技課題の提供、生徒の生活指導等、飲ミニケーションにおいては指導員としての姿勢あるいは人生観についても勉強させていただき、私にとって良い刺激になりました。



さて、話は変わりますが、次回のリレートークは昔は大酒飲み仲間、今は心の友。仕事も趣味もなんなくこなす紳士な男、愛媛県立新居浜高等技術専門校の平田先生にお願いしたいと思います。間違いなく良いリレートークができ上がると思います。乞うご期待。